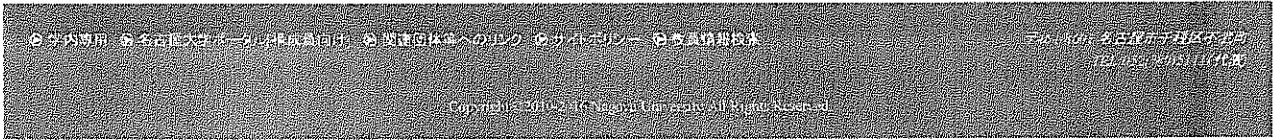


ホーム > 大学の概要 / 学部・研究科 > 大学広報 > 教育記者会との定例懇談会

教育記者会との定例懇談会

総長室	教育記者会との定例懇談会
執行体制	名古屋大学では、研究成果、大学のトピックス、行事予定等の情報を発信するため、毎月1回、総長・関係理事と名古屋教育記者会との懇談会を定期的に行っています。
組織 / 学部・研究科など	
学術憲章 / 宣言など	平成28年度 <ul style="list-style-type: none"> 平成28年9月28日 平成28年7月27日 平成28年6月22日 平成28年5月24日 平成28年4月27日
中期目標・中期計画・評価 / 情報公開 / 公表事項など	
歴史 / 各種データ	
大学広報	
教育記者会との定例懇談会	平成27年度 <ul style="list-style-type: none"> 平成28年3月31日 平成28年2月24日 平成28年1月27日 平成27年12月24日 平成27年11月25日 平成27年11月06日 平成27年9月30日 平成27年7月29日 平成27年6月26日 平成27年5月20日 平成27年4月22日
新聞記事掲載状況	平成26年度
研究教育成果情報	平成25年度
受賞者情報	平成24年度
広報誌など	平成23年度
ビデオアーカイブ	平成22年度
	平成21年度
	平成20年度
	平成19年度
	平成18年度
	平成17年度

教育記者会との定例懇談会



平成28年度第5回教育記者会懇談会 ★=説明者有

I 世界屈指の大学を目指す取り組み NU MIRAI 2020

1: ジョイントディグリープログラムによるエディンバラ大学国際連携理学専攻の設置。

キックオフシンポジウムについて★ 資料1、P2

2: 科学技術振興機構(JST)産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム採択と

人間機械協奏技術コンソーシアム設立について★ 資料2、P14

II 輝け! 名大生

3: 「秋の大収穫祭2016」農家と大学生の交流会@名古屋大学

農業サークル「F&M」/ホームカミングデイ時にphononカフェにて開催★ 資料3、P21

III ハイライト

4: Heforshe10大学長会議報告+モニュメント上掲式について★ 資料4、P29・P48

5: ユニバーサルビレッジ国際会議について★ 資料5、P51

6: バイオメディカルエンジニアリング国際会議 産学連携セミナーについて★ 資料6、P56

IV 行事・その他

7: 日本・カンボジア学長会議について★ 資料7、P70

8: MIRAIプロジェクト キックオフミーティングについて★ 資料8、P73

9: 護身術講習会について★ 資料9、P75

10: 寄附金付き名大カレー販売について★ 資料10、P76

・以下、資料配付

11: 今後の行事予定 資料16、P90

12: 秋季入学式、ウェルビーイング入校式、PhDプロフェッショナル登龍門入校式 資料11

13: 台湾書道家 朱振南「青山不老」贈呈式(+博物館企画展) 資料12

14: 名大レクチャー 資料13

15: 全学同窓会講演会・夕食会 資料14

16: 雪氷研究大会 in 名古屋 資料15

以上

2016 3rd International Conference on Universal Village (UV2016)

第 3 回ユニバーサルビレッジ国際会議 2016

開催時期	2016 年 10 月 6 日 (木) ~ 8 日 (土)
開催場所	名古屋大学東山キャンパス (名古屋市中種区不老町) 豊田講堂
主催	名古屋大学 未来社会創造機構
共催	マサチューセッツ工科大学、北京航空航天大学 IEEE (アメリカ合衆国電気電子学会) (テクニカルスポンサーシップ)
参加者	国内 100 名、海外 50 名 合計 150 名 (予定)
参加予定国	日本、アメリカ合衆国、中国、スペイン、タイ他
使用言語	英語

Universal Village の基本コンセプト

○提案の背景

今日、生活の場である都市や集落の現状は、一方で新興国を中心とした人口増加と都市への急速な集中による過密/過疎の問題や環境/エネルギー問題を生起し、他方先進国においても、環境/エネルギー問題に加え、急速に進む少子高齢化などへの対応など、様々な課題を抱えています。そのため、地球温暖化によってもたらされる自然災害や都市化による被害の拡大に対し、自然的存在としての人間の認識とともに、都市と自然が共生した環境への志向性を高めているのではないのでしょうか。

特に我が国における未来志向の都市像に関する議論は、2011 年 3 月に発生した東日本大震災や福島原発の事故により大きく変質し、安全・安心なまちづくりの重要性や自然環境との新たな共生のあり方、或いはヒューマンネットワークの視点などより広い議論の拡がりをみせています。

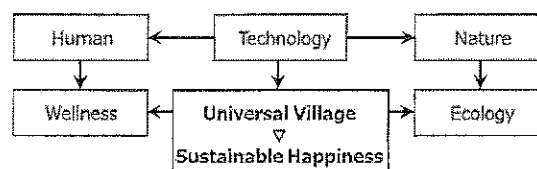
<Universal Village> はこのような背景と基本認識に基づき、将来の都市/地域に向けて投げかけられた一つのコンセプトであると言えます。

○基本コンセプト

<Universal Village> の基本的考え方は、本会議の創設者である MIT (Massachusetts Institute of Technology) /ITRC (Intelligent Transportation Research Center) センター長である正木一郎教授が提唱されたものです。

<Universal Village> のシンボルマークは、人<Human>と自然<Nature>を結びつけるものとして、技術<Technology>が描かれています。言わば、<Universal Village>の基本コンセプトは、自然<Nature>に対応した地球環境におけるエコ<Ecology>と人<Human>に対応した、あらゆる人の生活を支えるウェルネス<Wellness>の総合的な科学技術<Technology>によるバランスのとれた持続的な都市/地域の実現にあります。

言い換えれば、<Universal Village>は、「みんなのまち」として、誰でもが生活の質(安全に/安心して/便利に/快適に)を確保しながら、家族やコミュニティの中で幸福に暮らせるまちであり、生活の場である都市や集落の目標として希求される将来像<Sustainable Happiness>を表していると考えられます。



<p><Universal> 普遍的、全体的、宇宙など 全てを包括する意。 例) Universal Design 障害者だけに限定せず、誰でも が公平に利用できるデザイン</p>	<p><Village> ソフトとハードが一体的に 整備された地域、場所の意。 例) Urban Village 社会的階層や用途を混在させ持続 可能なコミュニティとそのための 都市空間づくりを目指す動き</p>
--	--

UV2016／名古屋に向けて

2013年の第1回北京会議、2014年の第2回ボストン会議に次いで、第3回は名古屋において2016年10月に開催し、日米中をはじめ関連各国からの参加により多面的な議論と個別具体的な議論を深め、具体の提言を打ち出します。

国際会議においては、学会、産業界、政府機関の専門家が、地球環境の将来に向け「Universal Village」として投げかけられた都市像を共有しつつ、それを実現するための科学技術的提案について全体システムの刷新に果たす役割や個別技術の可能性などを様々な観点からの議論を行ないます。

プログラム

10月5日(水) Pre-Day

18:00~20:00 ウェルカムレセプション

10月6日(木) Day 1

9:00~9:30 開会式

武田 一哉 (UV2016 General Chair、名古屋大学教授)

松尾 清一 (名古屋大学総長)

正木 一郎 (UV Founder、MIT 教授)

9:30~11:15 基調講演

安浦 寛人 (九州大学副総長)

Berthold K. P. Horn (UV2016 General Chair、MIT 教授)

11:30~12:00 COI セッション

森川 高行 (名古屋 COI 拠点研究リーダー、名古屋大学教授)

上出 寛子 (名古屋大学特任准教授)

13:20~15:10 カンファレンスオーバービュー

15:30~17:00 特別講演

William Colglazier (Former Science and Technology Adviser to the U.S. Secretary of State)

武田 修三郎 (文部科学省参与)

18:00~20:00 バンケット (ANA クラウンプラザホテル)

10月7日(金) Day 2

9:00~10:30 メイヤーズフォーラム

太田 稔彦 (豊田市長)

Miguel Arana Catania (Director for Participation of the City of Madrid, Spain)

10:30~17:30 学生フォーラム

日米中の学生チーム

10:40~17:00 セッション

Session 1: Intelligent Transportation (1)

Session 2: Intelligent Transportation (2)

Session 3: Urban Management

Session 4: Intelligent Healthcare (1)

Session 5: Intelligent Healthcare (2)

Session 6: Intelligent Life Support

Session 7: Intelligent City

Session 8: Microbial Technology & Environmental Protection

Session 9: Smart-City Trash Management and Treatment for Zero-Emission

Session 10: Data Visualization
Session 11: Intelligent Materials
Session 12: Renewable Energy
Session 13: Human Factors
Session 14: Human Robot Interaction

17:30~18:00 閉会式

10月8日(土) Day 3

9:00~17:30 エクスカーション(豊田市足助町)

プログラム概要

セッション

重要検討領域として、今後のキーテクノロジーを絞り込み、その推進を図り、最終的には具体的な都市における適用の検証を通じ、次世代型都市の実現への貢献を目指す。

領域1 交通(モビリティ) Intelligent transportation system and Urban planning

領域2 医療/福祉(ウェルネス) Healthcare and Well-being

領域3 都市(スペース) Intelligent Communities

領域4 環境(エコロジー) Ecological System

領域5 情報(システム) Data Management

領域6 物質(エナジー) Green Energy and Material

領域7 スペシャルセッション Special Session

メイヤーズフォーラム

自治体から、都市/地域での課題とその取り組みを紹介する。

学生フォーラム

日米中の学生チームが、科学技術により、人/ウェルネスと、自然/エコロジーが調和した持続可能な社会の実現に向けた議論と提言を行う。

エキシビション

各企業の技術・製品紹介の場として企業展示ブースを設け、UVコンセプト実現に役立つ機器やシステム、開発中の技術・デバイス等の展示やデモンストレーションを行う。

エクスカーション

名古屋拠点 COI モデルコミュニティ形成プロジェクトの実証現場である豊田市足助町を訪問し、研究成果の実証事例の見学を行なう。

問合せ先 名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部 跡部悠未

TEL : 052-788-6056 Email : atobe@coi.nagoya-u.ac.jp